

C-11 家庭におけるイス生活化の実態に関する研究（予報）

奈良女大家政 花岡 利昌
栗正 康子

1. 戦後、日本人の生活の洋式化と共にイスの使用度も増加しているが、家庭におけるイス生活は、どのような場所で行なわれ、どのような型のイスを使用しているか、またそのイスは、どのような機能を果たしているかなどについて実態を知ると共に、住生活の合理化に資することを目的とした。

2. ①奈良女子大学附属中学生 146 名の家庭を調査対象とし、アンケート調査、②アンケート調査の結果、イス使用に多様性のみられた家庭 10 戸を選びケーススタディーを行なった。

3. 家庭でイスを使用している部屋数と部屋名（A＝勉強室、B＝食事室、C＝応接室、D＝居間、E＝その他）との関係は、1 室のみでイス生活をしている場合は A、2 室では A と B あるいは C か D、3 室では A と B と C あるいは D、4 室では A と B と C と D の組合せの場合が多かった。部屋別にみたイス生活化の割合は、A では全家庭でイスを使用しており、B では全家庭中 52% がイス生活化され、C では 52%、D では 13% であった。つまり、子供室以外は、家庭における公的部分がまずイス生活化され、子供室以外の個室のイス生活化は極少数の例しかみられなかった。それぞれの部屋に入っているイスの果たす機能からみて A のイスは学習のみに使用するものの 69%、学習と休息に使用するもの 31%、B のイスは 100% 食事用に、C のイスは 90% が接客用に、D のイスは一家団らん、休息など家族のためにのみ使用するものが 64%、のこり 36% は接客にも使用していた。